

4. 前房関連性免疫偏位(anterior chamber-associated immune deviation :ACAID)における co-stimulatory 分子の働き

(眼科)塚原林太郎、竹内 大、毛塚 剛司、白井正彦
 (目的) 前房内に投与された抗原に対し、特異的な遅延型過敏反応が抑制される。今回、ACAID 誘導能を有する TGF- β 培養 M ϕ における co-stimulatory 分子の働きについて検討を行った。(方法) マウスの腹腔 M ϕ を TGF- β 存在下で一晩培養し、ACAID 誘導細胞を作成した。そして、TGF- β 非培養 M ϕ と co-stimulatory 分子の発現を FACS にて比較した。また、TGF- β 培養 M ϕ 存在下における抗 CD3 抗体刺激 T 細胞からの IFN- γ 、IL-10 産生量を指標とし、上記の分子の関与をブロック抗体を用いて検討した。(結果) TGF- β と培養した M ϕ において、co-stimulatory 分子の発現には明らかな変化が認められなかった。上記の系で、ACAID 誘導細胞では IL-12 産生が低下していた。しかし、CD80 および CD86 を共に阻害することにより、細胞増殖反応と IL-10 産生が完全に抑制された。(結論) ACAID 誘導時の Th2 系細胞の増殖および Th2 型サイトカインの産生に、co-stimulatory 分子である CD80/CD86 の関与が考えられた。

5. CMV による VAHS にて発見された combined immunodeficiency with predominant T- cell defect の一例

(小児科) 竹下みずほ、春原 大介、小林 楠和有瀧健太郎、宇塚 里奈、柏木 保代、河島 尚志、武隈 孝治、星加 明德

発熱、肝機能障害、痙攣を主訴に入院となった 2 ヶ月男児。入院後呼吸障害認め、酸素 Tent 内に收容し肝庇護剤投与下にて治療を開始した。諸検査にて CMV 感染症(肺炎、肝炎の合併)、およびそれによる VAHS と診断。 γ -グロブリン投与、ステロイドパルス療法および交換輸血施行にて VAHS は改善した。また Ganciclovir、Foscarnet、CMV high-titer γ -グロブリン投与により CMV 抗原陽性細胞数の低下を認めた。

生後 2 ヶ月での CMV による VAHS であり、先天性の免疫不全について検索したところ、combined immunodeficiency with predominant T- cell defect が最も考えられた。患児は今後、HLA アイデンティカルの兄からの末梢血幹細胞移植を予定している。

6. 乾癬患者の末梢血単球のサイトカイン過剰産生と、PCR による微生物の検出

(皮膚科学) 大久保ゆかり、沖 紀子、武田秀美、天谷美里、伊藤園子、長田雅子、内海雅子、古賀道之
 (小児科学) 河島尚志

乾癬と微生物との関連は以前より知られている。また我々は乾癬患者単球の IL-1 α 、IL-1 β 、IL-8 の過剰産生を報告してきた。この単球の活性化に微生物の貪食が関与している可能性を考えた。尋常性乾癬患者の末梢血単球より DNA を抽出し、細菌及び真菌に共通である universal primers を用いて PCR 法にて増幅、その DNA の塩基配列を解析し、健常人と比較した。患者群の単球中の細菌 16S ribosomal DNA 量は、健常者群のそれより有意に高値を示した。その塩基配列の解析より、一部には *Pseudomonas* 属の関連が推定された。真菌では有意差は認められなかった。

7. 成人 Still 病治療中に発症した Periaortic Fibrosis の一例

(内科学第三) 荒井 泰助、阿部 治男、高梨 博文、坪井 紀興、殿塚 典彦、新妻 知行、林 徹

Periaortic Fibrosis は、原因不明の稀な疾患で、後腹膜に発症した場合は後腹膜線維症と呼ばれる。今回、成人 Still 病治療中に発症した Periaortic Fibrosis を経験したので報告する。[症例] 41 歳、男性 [主訴] 胸背部痛 [現病歴] 平成 9 年 1 月、発熱、胸背部痛にて発症した胸膜炎合併成人 Still 病加療目的にて当院入院。PSL 40mg 開始し、著効を得た。外来にて経過観察され、平成 12 年 4 月 PSL 15mg 投与中、CT にて胸膜肥厚像が拡大し、大動脈内腔の狭窄を伴った大動脈を取り巻く腫瘤様陰影を認めたため、精査加療目的にて入院となった。[入院後経過] 典型的な画像所見より、Periaortic Fibrosis と診断し PSL 60mg に増量した所、腫瘤の著明な縮小及び炎症反応の陰性化を認めた。[結語] Periaortic Fibrosis と自己免疫疾患との合併例は散見されるが、成人 Still 病との合併例は報告がなく貴重な症例と考えられた。